EA998P－15〔カールロープ式〕安全帯　取扱説明書

落下質量 100kg対応　　**胴ベルト型安全帯一本つり専用**

はじめに

この製品は、建設現場、造船所、設備工事、林業等の高所作業において、作業者の墜落を防止する為に使用するもので、厚生労働省が定める「安全帯の規格」にあわせて製造した安全帯です。安全帯は、直接、あなた様のいのちを託す大切な保護具です。使用する前に、この取扱説明書を必ず最後までお読み頂き、十分理解した上で使用して下さい。

危険、警告、注意の意味（安全にお使い頂く為のお知らせ）

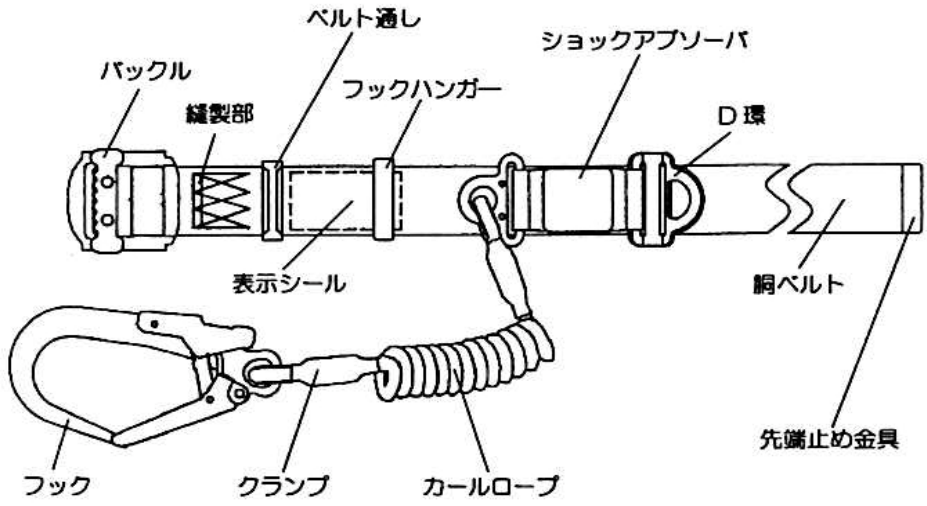
この取扱説明書の3つのお知らせ、危険、警告、注意の意味は、次の通りです。

危険　誤った使い方をしますと墜落等の恐れがあり、極めて危険ですので、絶対にお守り頂きたいお知らせです。

警告　誤った使い方をしますと墜落等の恐れがありますので、お守り頂きたいお知らせです。

注意　安全に使用する為にお守り頂きたいお知らせです。

安全帯の各部の名称



ご使用前に

新しい安全帯を使用する前には、使用開始年月を胴ベルトの裏に縫着されたラベルに必ず記入して下さい

警告

・安全帯は作業者の墜落防止用です。その他の目的には使用しないで下さい。
・安全帯を装着する前には、その都度、必ず〔点検項目と廃棄基準〕の内容に基づき点検を実施し、各部に異常がないことを確認して下さい。

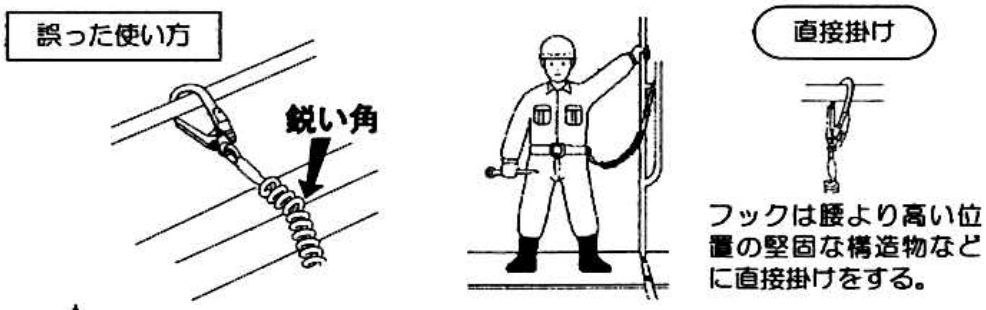
注意

・この安全帯は一本つり専用ですので、必ず足場のある場所で使用し、身体を保持する為には使用しないで下さい。体重をかける作業には、U字つり用を使用して下さい。

ご使用上の注意

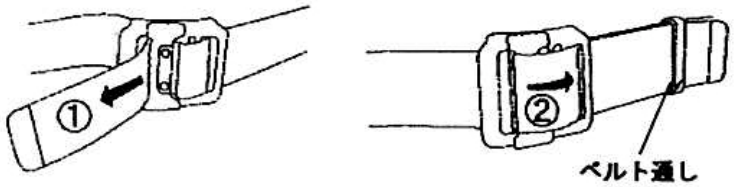
危険

・安全帯のフックを取り付ける対象物は、外れたり抜けたりする恐れのない構造物等で、墜落阻止時の衝撃荷重に十分耐えられる堅固なものを選んで下さい。
・鋼材等の鋭い角のある対象物にロープを回して掛けたり、触れないようにして下さい。墜落阻止時にロープが切断する恐れがあり危険です（下図）



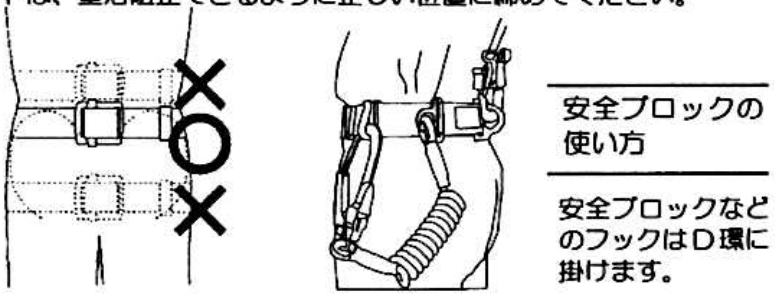
警告

・胴ベルトは、下図の示すように、バックルの挿入手順①②に従って正しく装着し、ベルトの端はベルト通しに通して下さい。
胴ベルトは腰骨の所に確実に締め、墜落阻止時においても足部のほうに抜けないようにして下さい。



胴ベルトは腰骨のところに締めてください

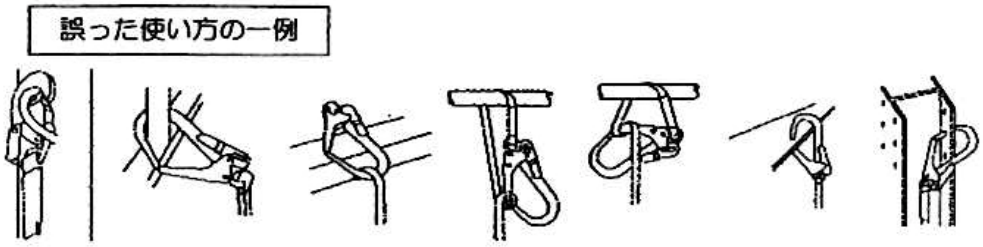
胴ベルトは、墜落阻止できるように正しい位置に締めてください。



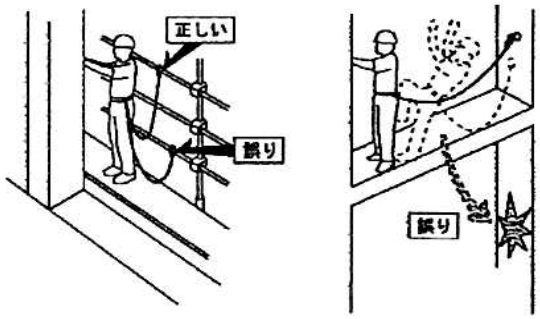
・フックの開口部は、二重の外れ止め機構を備えています。まず、①安全装置を押し、次に②外れ止め装置を引いて、開口して下さい。フックを取付対象物に掛けた後は、外れ止め装置が確実に閉まっていること、安全装置が戻っていることを確認して下さい。

・フックは、正しい方法で取付対象物に直接掛けて下さい（下図）

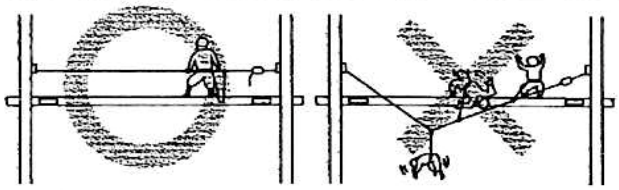
・墜落阻止時の衝撃荷重によって、フック本体が曲げられあるいはねじられて変形したり、外れ止め装置、安全装置が押されて開口する恐れのある掛け方はやめて下さい（下図）



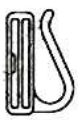
・フックは必ず自分の腰より高い位置に掛けて下さい。また、できるだけ高い位置に掛けた方が、墜落阻止時に身体にかかる衝撃荷重が少なくなります。
低い位置に掛けると、落下距離が増え、衝撃荷重が大きく危険です（下図左）
・墜落阻止時において振り子状態になり、構造物に激突することのないよう、フックの取り付け位置に気を付けて下さい（下図右）



垂直・水平親綱の１スパンを利用する作業者は１名としてください

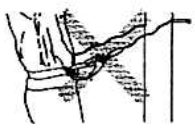


友引き状態になり、他の作業者も同時に墜落するおそれがあります。

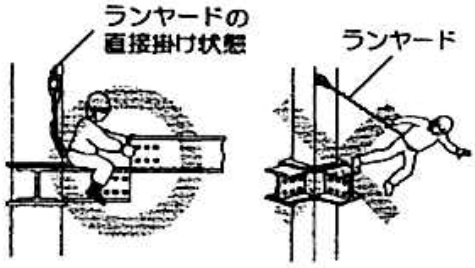


フックハンガー

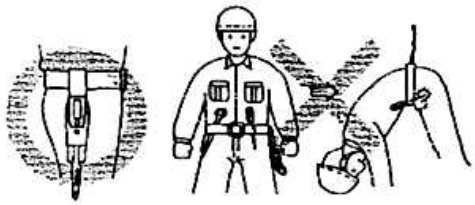
フックハンガーはフックを吊り下げるだけの強度しかありませんので、作業用として使用しないでください。



安全帯に体重をかけないで下さい
万一の墜落の時に墜落阻止を
目的に使用する安全帯です。
この安全帯は体重をかける
使用方法は認められていません。



シノ等の工具類は工具ケースへ入れて下さい
胴ベルトにシノを差しておくと、
墜落阻止時に身体に傷をつける
場合があります。



安全帯は屋外に放置しないで下さい
ベルト、ロープは合成繊維の為紫外線によって強度が低下します。

・墜落阻止時に身体が床面や下方の障害物に衝突しないように、
フックは床面等から高さがロープの長さの2倍以上ある取り付け対象物に
掛けて下さい。
・ロープやベルトが溶接の火花等の火気や放熱体などにふれると強度が
低下します。
・ロープやベルトに酸又はアルカリなどの薬品類が付着する恐れのある場所では
使用しないで下さい。これらの薬品類が付着すると強度が低下します。
・1本の垂直親綱及び1スパンの水平親綱を利用する作業者は1名として下さい。
＊水に濡れたり、水分を含んだロープは電気を良く通すので、特に雨天には、
感電に注意して下さい。

注意
・墜落阻止時に背骨や内臓を傷めることがないように、D環の位置が
身体の側部か斜め後ろになるように取り付けて下さい。
・ロープを引きずらないで下さい。ロープを傷つけ、劣化を早めます。
フックを取付対象物に掛けていない時は、フックハンガーに
掛けて下さい。
・工具類は腰袋等に入れ、胴ベルトと身体の間に差し込まないで
下さい。墜落阻止時に身体を傷つけます。

点検・廃棄

交換の目安（耐用期間）

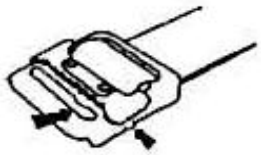
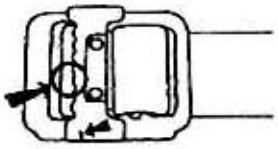
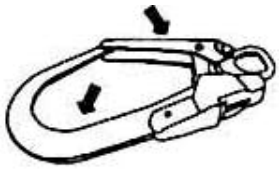
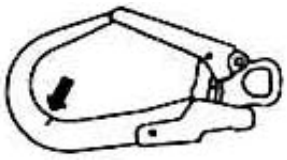
使い方によって異なりますが、安全帯の交換の目安としてはロープで2年くらい、ロープ以外のものについては3年ぐらいを目途として下さい。

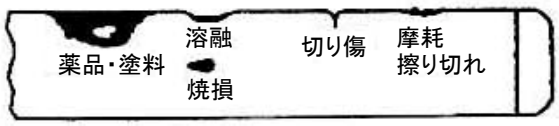
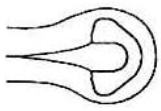
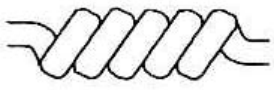
但し、耐用期間内であっても使用前及び一定期間毎に〔点検項目と廃棄基準〕の内容に基づき点検を実施し、廃棄基準に該当する部分があれば廃棄して新しい安全帯に取り替えて下さい。

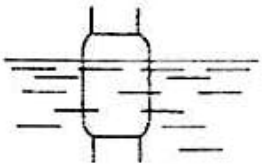
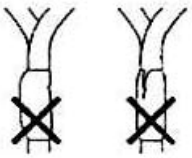
警告

・墜落阻止等で一度でも大きな衝撃を受けた安全帯は、廃棄基準に関わらず、外観に変化がなくても廃棄して下さい。
・安全帯は分解・改造しないで下さい。その必要があると判断された時はご相談下さい。

点検項目と廃棄基準（図は一例を示す）

点検部分と項目		廃棄基準	
バックル	変形	締まり具合が悪い	
		リベットのカシメ部にガタ・変形がある	
	摩滅・傷	深さ1mm以上の傷・亀裂がある	
		リベットのカシメ部が1/2以上摩滅している	
		ベルトの噛合部が摩耗し、ベルトの締め付けがゆるむ	
	錆	全体に錆が発生している	
	変形		摩滅・傷
			
フック	変形	変形が目でわかる	
		外れ止め装置、安全装置の開閉作業が悪い	
		リベットのカシメ部にガタ・変形がある	
	摩滅・傷	深さ1mm以上の傷・亀裂がある	
		リベットのカシメ部が1/2以上摩滅している	
	錆	全体に錆が発生している	
	バネ	破損・脱落している	
	変形		摩滅・傷
			

<table>
<tr><th colspan="3">点検部分と項目</th><th>廃棄基準</th></tr>
<tr><td rowspan="6">ベルト</td><td rowspan="3">耳
幅の中</td><td>摩耗・擦り切れ</td><td>3mm以上ある</td></tr>
<tr><td>切り傷</td><td>3mm以上ある</td></tr>
<tr><td>焼損・溶融</td><td>3mm以上ある</td></tr>
<tr><td colspan="3"> 
</td></tr>
<tr><td rowspan="3">全体</td><td>薬品・塗料</td><td>薬品で変色している
塗料で硬化している</td></tr>
<tr><td>縫糸</td><td>切断されている所がある
摩耗・擦り切れガ激しい</td></tr>
<tr><td>先端止め金具</td><td>変形・脱落している</td></tr>
<tr><td rowspan="5">D環</td><td colspan="2">変形</td><td>変形が目でわかる</td></tr>
<tr><td colspan="2">摩滅・傷</td><td>深さ1mm以上の傷・亀裂がある</td></tr>
<tr><td colspan="2">錆</td><td>全体に錆が発生している</td></tr>
<tr><td colspan="2">変　　形</td><td>摩滅・傷</td></tr>
<tr><td colspan="2"> </td><td> </td></tr>
<tr><td rowspan="7">ロープ</td><td colspan="2">切り傷・溶融</td><td>樹脂膜が1cm以上切損
している</td></tr>
<tr><td colspan="2">摩耗</td><td>被膜がけずれて
ロープ面が1cm以上出たもの</td></tr>
<tr><td colspan="2">破損</td><td>被膜がけずれて
ロープ面が1cm以上出たもの</td></tr>
<tr><td colspan="2">シンブル</td><td>脱落している</td></tr>
<tr><td colspan="2">変形・変色</td><td>著しく型崩れしている</td></tr>
<tr><td colspan="2">シンブル
  </td><td>切り傷
 </td></tr>
<tr><td colspan="2">摩耗</td><td>焼損・溶融</td></tr>
<tr><td colspan="2">  </td><td> </td></tr>
</table>

点検部分と項目		廃棄基準
フック D環 取付部 （クランプ）		アルミ合金で圧縮止めして おります 海水中にはつけないで下さい アルミ合金が溶解してロープが 抜ける恐れがあります
		アイ部及び圧縮止め部の 亀裂、変形、ロープのずれ、 又は著しい傷等が 発生しているものは 絶対使用しないで下さい
	アイ部・圧縮止め部	亀裂・変形・ロープのずれ、 又は著しい傷等が 発生しているもの
ｼｮｯｸ ｱﾌﾞｿｰﾊﾞ	変形・傷	カバーが破れ内部のベルト・ 縫製部が露出しているもの 大きな衝撃が加わり変形 したもの

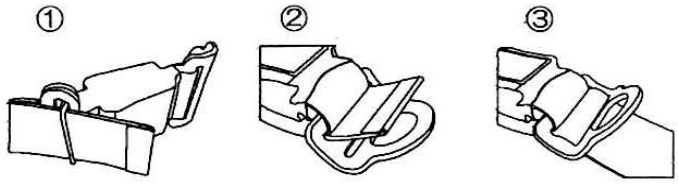
各部の強度

項　　目	安全帯の規格	ﾒｰｶｰ社内試験結果
胴ベルト（幅50mm）	15．0kN以上	25．0kN以上
バックル連結部	8．0kN以上	9．0kN以上
ロープの強さ	15．0kN以上	22．0kN以上
フックの強さ	11．5kN以上	15．0kN以上
環類の強さ	11．5kN以上	15．0kN以上
安全帯の衝撃吸収性 及び強さ	8．0kN以下 破断しないこと	6．1kN以下 破断なし

部品交換

注意

・安全帯のロープ・ベルト等は同一メーカー・同一型式のものを使用して下さい。
・両端のフックとD環が付けられたロープ部分と胴ベルトとの結合は、下記に示す方法により、正しく確実に行って下さい。



保守・保管

・ベルト・ロープに、汗、ほこり、油、塗料等の汚れがついた場合は、ぬるま湯又は中性洗剤で洗い、直射日光の当たらない風通しの良い所で自然乾燥させて下さい。汚れが落ちない場合でも、溶剤等で洗うことはやめて下さい。
・金具類が水などに濡れた場合は、乾いた布で良く拭き取った後、錆止めの油をうすく塗って下さい・
・バックル、フックの可動部やスプリングなどには、スピンドル油等を定期的に注油して下さい。砂や泥が付いている場合は、よく掃除して取り除いて下さい。
・安全帯は火気・放熱体・腐食性物質・薬品類（酸性、アルカリ性、有機溶剤等）を避け、直射日光の当たらない風通しの良い所に保管して下さい。